



会津果樹情報 9月号

☆「りんご」、「かき」は肥大が大きく推移しています。☆
☆「ぶどう」は収穫期が早まっています☆



令和7年9月5日
福島県会津農林事務所 農業振興普及部
(TEL 0242-29-5307)
JA会津よつば あいづ西部営農経済センター

1 気象概況及び予報

表1 月別気象表（会津若松市）

月	半月	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比 (%)	本年	平年	平年比 (%)
8	1	29.0	26.0	3.0	35.9	31.7	4.2	24.4	21.5	2.9	13.0	20.0	65	34.3	34.4	100
	2	25.0	25.9	-0.9	29.8	31.6	-1.8	21.7	21.4	0.3	36.0	19.8	182	20.3	33.8	60
	3	25.4	25.5	-0.1	30.0	31.2	-1.2	22.1	21.2	0.9	33.5	21.8	154	20.5	32.0	64
	4	27.6	25.1	2.5	34.1	30.7	3.4	22.8	20.8	2.0	0.0	22.8	0	42.2	30.7	137
	5	28.7	24.6	4.1	35.3	30.1	5.2	23.2	20.3	2.9	1.5	23.6	6	50.6	29.5	172
	6	27.2	24.0	3.2	34.0	29.5	4.5	22.2	19.8	2.4	3.0	29.4	10	41.9	33.6	125
平均・合計		27.2	25.2	2.0	33.2	30.8	2.4	22.7	20.8	1.9	87.0	137.4	63	209.8	194.0	108

会津若松市の令和7年8月の平均気温は27.2℃（平年比+2.0℃）で、降水量は87.0mm（平年の63%）と、**高温少雨傾向**で推移しました（表1）。

東北地方の1か月予報（9/6～10/5）によると、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の**気温は高い見込み**です。降水量は平年並で、日照時間は平年並みか多い見込みです。

2 生育概況（9/1現在、会津若松市）

（1）果実肥大状況

表2 各樹種の果実肥大状況（9月1日調査、暦日比較、平年は1986～2024年の平均）

樹種	りんご		かき	
品種	ふじ		会津身不知	
調査地点	会津若松市北会津町		会津若松市門田町	
分類	縦径	横径	縦径	横径
果実径 (mm)	71.9	75.6	48.2	66.5
平年比 (%)	107	101	102	103

りんご「ふじ」の果実肥大は、暦日比では平年より大きく、生育日数比では平年並みで推移しています（表2）。なお、直射日光が当たる樹冠表層において日焼け果が見られており、一部のほ場においてリンゴハダニが見られています。

かき「会津身不知」の果実肥大は、暦日比では平年より大きく、生育日数比でも平年より大きく推移しています。

（2）モモ

ア 収穫期・果実品質

会津若松市神指町では、「あかつき」の収穫盛が、平年より1日遅い8月7日、

収穫終が平年より3日遅い8月13日となりました。糖度は平年より高くなりました。

イ セン孔細菌病

セン孔細菌病の発生は少ない状況です。

(3) ブドウ

ア 収穫期・果実品質

果樹研究所（福島市平野）における「巨峰（無核栽培）」の収穫始は8月28日で平年より9日早く、「高尾」の収穫始は8月28日で平年より12日早くなりました。糖度は平年より高いです。

イ 高温障害

7月下旬以降の高温・強日射によりハウス・露地において、果実の高温障害が発生しました（図1）。



図1 高温障害
(8/4撮影)

3 今後の栽培管理

(1) 樹種共通

ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り・マルチ

草生園においては樹と草との水分競合を防ぐため、草刈りを行いましょう。また、刈り草や稲わらのマルチを行い、**土壌水分の保持**に努めましょう。

※地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分となります。

ウ 病虫害防除

収穫前日数には特に注意し、使用濃度や使用回数等の農薬使用基準を十分に確認し、間隔が空きすぎないように注意して使用しましょう。

(2) リンゴ

ア 中生種の収穫前管理と収穫

摘葉や玉回し等の着色管理は、各品種の生育状況に合わせて遅れないように実施しましょう。摘葉は、気温の高い日が続く場合は日焼け果の発生が懸念されるため、始めは果実に直接触れている葉を中心に軽く行い、その後は気温の状況に応じて程度を強めて実施しましょう。落果防止剤は、収穫開始予定日などの農薬使用基準に十分注意して使用しましょう。

イ 「ふじ」の栽培管理

反射シートの敷設や摘葉等の収穫前管理は遅れないように実施しましょう。

「ふじ」の摘葉を9月下旬頃から実施する場合は、1回目は果実と接触している葉

を中心に数枚程度を摘葉し、その後は10月中旬に玉回しと合わせて行いましょう。

ウ ハダニ類

高温乾燥が続く場合は多発する恐れがあります。なお、ダニ剤の散布は、効果を高めるために草刈り後、ハダニが樹上に登ってから実施しましょう。

(3) カキ

ア 新梢管理

昨年の凍霜害が発生した園地では、新梢の発生が多くなっています。8～9月にかけて3回程度に分けて新梢管理を実施してください(一度にせん除すると日焼け果の発生や枝の二次伸長を招く恐れがあるので注意してください)。

イ カメムシ類

園内での成虫の飛来状況をよく観察し、多数の飛来を確認した場合は、早急に殺虫剤を散布してください。

(4) モモ

ア 秋季せん定

若木や強勢樹で新梢の二次伸長が見られる場合には、樹勢に応じたせん定を行いましょう。

樹勢が強く徒長枝の発生が多い強勢樹では、9月中旬頃(徒長枝が太る前)を目途に収穫が終了した品種から秋季せん定を実施し、花芽の充実と樹勢の安定化、秋期防除における薬液透過の改善を図りましょう。

適勢樹では、主枝や亜主枝の生育を妨げる徒長枝を整理し、樹勢の乱れを防ぎましょう。弱勢樹では、秋季せん定を実施しないか最小限とし、葉芽の多い中果枝や長果枝を多く配置することで、樹勢の回復を図りましょう。また、若木では適勢樹と同様の方法で行いましょう。

特に、幼木から若木では冬季せん定が強せん定になると寒凍害を引き起こしやすいため、夏季の新梢管理で残した主幹部の強勢な枝は秋季せん定時に整理し、冬季に大きな切り口を作らないように注意しましょう。

また、モモせん孔細菌病の罹病葉が多く見られる場合には、樹勢を乱さない範囲で枝をせん除し、菌密度の低減を図ることも効果的です。その際には、秋期防除実施前に秋季せん定を行い、薬液の到達を妨げる枝は除去するなど、防除効果を高めるよう工夫しましょう。

イ せん孔細菌病

降雨により感染が拡大しやすくなります。被害枝・葉・果実は見つけ次第速やかに除去して適切に処分しましょう。

越冬伝染源の密度を低くするため、秋期防除(銅剤)は3回、確実に実施しましょう。

(5) ブドウ（収穫前管理）

ア 「シャインマスカット」の収穫適期の把握

近年、栽培面積が増加している「シャインマスカット」は、「巨峰」等の紫黒色系の品種と異なり、果皮色による収穫期の判断が難しい傾向にあります。日当たりが良い場所は果皮が黄化しやすく、有色袋を使用している場合は緑色気味で仕上がります。収穫前に食味を確認した上で適期収穫を心がけましょう。

イ 収穫時の留意点

- a 雨の日やその直後の果実は糖度が低く、日持ちも悪い傾向にあります。収穫前の2～3日が晴天で、当日も晴れている日に収穫するように心がけましょう。
- b 収穫は、日持ちを向上させる目的で果実温度の低い早朝などに行いましょう。
- c 主枝の先端や日当たりが良く登熟が進んだ枝の果実は成熟が早いので、優先して収穫しましょう。
- d 果粉を落とさないため、収穫果実は穂軸を持ち、果粒に直接触らないように注意しましょう。

〇秋の農作業安全運動を実施中です（令和9月1日～10月31日）。高所での作業、熱中症に気をつけましょう！

〇近年、農業災害が多発しています。農業保険（農業共済・収入保険）に加入しましょう！

〇会津若松市でクマの目撃が相次いでいます。朝夕、1人で園地に行かないようにしましょう！

〇収穫残渣は、クマが電気柵内に入ろうとするきっかけになります！

園地に放置せず、適正に処理（一か所に集めて埋める、柵で囲う等）しましょう！

